

水草研究会第9回全国集会報告

1987年8月1日から2日にかけて、海水浴客でにぎわう広島県グリーンピア安浦で、水草研究会第9回全国集会在開催された。交通の便が悪いにもかかわらず、東は東京から西は福岡まで36名の参加者があった。

8月1日午後1時30分より、グリーンピア安浦のセミナー室において次の7題の研究発表が行われた。

座長 関 太郎氏

1. 桜井善雄：植生と水辺景観—アンケート調査から
2. 大滝末男：「塩原化石湖」にみられる水草の化石について
3. 国井秀伸・荒巻 稔：ヒツジグサとジュンサイの浮葉の動態
4. 内山 寛：タヌキモ属について

座長 浜島繁隆氏

5. 関 太郎・吉野由紀夫・池田 博・片野田逸郎・藤原道郎・吉岡道郎：広島県芦田川下流域におけるセイタカヨシについて

6. 橋本卓三：西条盆地の現状と溜池群

7. 下田路子：西条盆地の溜池の水草

大滝会長が水草の化石とホザキノフサモを、また関太郎氏がセイタカヨシをそれぞれ持参されたので休憩時間に観察することができた。

研究発表後、総会が開かれ、別記の事項について報告と審議が行われた。

午後6時より懇親夕食会が開催され、9時近くまで会員相互の交流が深められた。

8月2日は快晴の朝から暑い一日であった。午前9時、貸切バスに34名が乗車してグリーンピア安浦を出発した。最初の目的地であったカワツルモの生育地への道路が、海水浴客が殺到して交通止となったため、見学を断念して次の目的地に向かった。車中で関 太郎氏よりグリーンピア安浦近辺のアカマツ二次林についての説明があった。

豊田郡安浦町内海の井村剛平氏宅の前を流れる用水路



が、最初の見学地となった。井村氏の御好意で水草の刈り取りを延期していただいたので、水路一面に繁茂するリュウノヒゲモ、ホザキノフサモなどを見ることができた。

次の目的地の西条盆地にむかい北上する車中で、安浦町亀山神社の社叢林について太刀掛優氏の、また西条盆地の森林植生について吉野由紀夫氏の説明があった。

標高約200mの西条盆地には、西条湖成層と呼ばれる第四紀洪積世の地層が広く分布している。車窓より、黒瀬川の浸食作用でできた湖成層の露頭や台地地形を見ながら、西条盆地で最初の見学地である迫池についた。迫池はアカマツ林を背にした水草の豊富な池であるが、東岸で大規模な建設工事が行われており、将来の水草相の変化が予想される。迫池とその近くの小池を観察した後、広島大学キャンパス内の山中会館食堂で昼食をとった。

昼食後、食堂近くのアカマツ林に囲まれた湯池を見学した。ここは、水草とともにトンボ類も種類が多い池であった。最後にJR山陽本線の北側にある大池、四歩一池など合計5個の池を徒歩で見てまわった。その後、午後3時30分頃山陽本線西条駅にて解散した。

猛暑の中での溜池めぐりは、決して快適とは言えないものであったが、参加者一同、観察・採集に大変熱心で

あった。変化に富む西条盆地の溜池の様子をいくらかでも御理解いただけたなら大変うれしく思う。運営面で行き届かないことも多々あり、御迷惑をおかけしたにもかかわらず、無事全国集会を終了することができ、深く感謝する。

なお、8月2日の夜、中国新聞論説委員の阿部 洋氏と、全国集会出席者(大滝会長、浜島副会長、桑田健吾、下田路子、宝理信也、三上幸三、吉野由紀夫)、丹藤順生氏(博新館)とが対談した。その模様を阿部 洋氏が中国新聞の「天風録」に書かれたので、あわせて御報告しておく(下欄)。

エクスカージョンで見られた植物

1. 豊田郡安浦町内海の用水路
(水温 21.2℃、pH 6.40、電導度 0.2mS/cm)
〔* 沖 陽子氏による測定値; 以下同様〕
沈水植物: ホザキノフサモ、リュウノヒゲモ、エビモ、
 ジャジクモ
浮漂植物: アオウキクサ、ウキクサ
挺水植物: ミズハコベ
2. 東広島市西条町下見
a. 迫池 (水温 31.0℃、pH 5.60、電導度 0.05mS/cm、溶存酸素 7.5ppm)

中国新聞 8月4日より

天風録

水草研究会の面々にお会いした。ちょうど広島で全国集会があったのだ。みなさん全部お集まりになって

も、二百人そこそこのミニ研究会だが、そこは一騎当千。水草を愛してやまない人々である▲広島はまだいい、自然に恵まれていて、広島の水草は幸せだね。そう、よそからおいでになったメンバーはおっしゃる。関東平野一帯の水草は、ため池や沼がつぶれて壊滅。名古屋辺りも都市化の波に押しつぶされて、ひん死の状態という▲おこほですが、広島も危ない、というのが広島勢の自己診断だ。一見よさそうなため池も、周りの自然を削り取られて丸裸同然だという。そうなれば、生きながらのしかばね。つまり生かさず、結局殺してしまうのが広島県の実情らしい▲みなさんによ

ると、水草、生死の診断はこうだ。第一期、深みのクロモがまずやられる。浮いているヒンがやられると第二期。水辺のアシが枯れたら第三期、死期。もう水草は全滅である。なによりも自然からの孤立が死にいたる病なのだ▲夏の七草"を"存じたらどうか。五十音順に並べると、イ、オモダカ、コウホネ、サギソウ、ハス、ヒツジグサ、ヨシ。ご覧の通り、残らず水草であるのが特徴だ。花の時期は夏のはじめから秋にわたるが、決して春や秋にひけはとらない▲水草研究会で一同のお話をうかがいながら、七草の一株、一輪を思う。たおやかに、すずやかに純白と黄と淡紅と緑と。色と。耳をすませば、七草の訴えが聞こえる。あなたが目線を水面に合わせて。そうすれば、自然の深い懐が見える...

沈水植物：タヌキモ、ヒメタヌキモ、ホッソモ
 浮葉植物：ヒシ、ヒルムシロ、ジュンサイ、オグラコ
 ウホネ（柱頭盤赤）、ホソバミズヒキモ、
 マルバオモダカ、ヒツジグサ
 挺水植物：クログワイ、ヒメガマ、ヨシ

b. 小池

浮葉植物：ヒシ、ジュンサイ、ヒルムシロ
 挺水植物：アシカキ、ガマ、クログワイ

c. 湯池（水温 30.5℃、pH 6.55、電導度 0.02mS/cm、溶存酸素 6.22ppm）

沈水植物：フサモ、ヒメタヌキモ、スブタ sp., イト
 シャジクモ（加崎英男先生同定）、*Nitella* sp.

浮葉植物：ジュンサイ、ヒツジグサ、オグラコウホネ
 （柱頭盤赤）、ホソバミズヒキモ、フトヒ
 ルムシロ

挺水植物：クログワイ、チゴザサ、ヨシ
かみじけ

3. 東広島市西条町上寺家

a. 大池（水温 31.6℃、pH 7.00、電導度 0.18mS/cm、溶存酸素 9.9ppm）

沈水植物：オオカナダモ
 浮葉植物：コウホネ（柱頭盤赤）、ヒシ
 挺水植物：マコモ、ヨシ

b. 四歩一池（北岸より）

浮葉植物：ヒシ、ジュンサイ
 挺水植物：アシカキ、ガマ、カンガレイ、ヨシ

c. 夫婦池（南）

浮葉植物：オグラコウホネ（柱頭盤赤）、スイレン
 挺水植物：ガマ、キショウブ、クログワイ

d. 夫婦池（北）（水温 31.8℃、pH 7.01、電導度 0.12mS/cm、溶存酸素 4.1ppm）

沈水植物：クロモ
 浮葉植物：スイレン、ヒシ
 挺水植物：ガマ

e. マコモ池（仮称）（水温 31.5℃、pH 9.14、電導度 0.2mS/cm、溶存酸素 10.7ppm）

沈水植物：クロモ、タヌキモ、ヒメタヌキモ、ホッソ
 モ、*Nitella* sp.
 浮葉植物：スイレン、ホソバミズヒキモ
 挺水植物：マコモ、ヨシ、ガマ

（下田路子 記）

総 会 報 告

○報告事項

1. 会員状況（1986.8—1987.8）

入会	15名
退会	10名
会則8条(2)による退会	10名
会員数	234名 1987.8.20現在

2. 昭和61年度会計報告

〔収入〕

前年度繰越金	370,322
会 費	505,930
別 刷 代	39,390
バックナンバー売上金	29,700
寄 付	60,000
全国集会余剰金	22,620
利 息	10,664

合 計 1,038,626 円

〔支出〕

会報印刷費	521,500
会報発送費	137,350
名簿印刷費	120,000
封筒印刷費	25,000
事務費（通信費、文具類）	11,920

合 計 851,770 円

次年度繰越金 186,856 円

○審議事項

1. 10周年記念号の発刊について

来年度は会創立10年目になるので、これを記念して会報の特別号を発行することが承認された。来年度前半の会報（No31、32）を合併号とし、これを可能な限り内容盛り沢山の記念号とする予定である。

2. 全国集会の開催地について

第10回を記念して、できるだけ多数の会員の参加を呼びかけるべく東京を第1候補地とすることが決定された。具体的立案は大滝会長を中心に進めていただくこととなった。（角野康郎 記）